

「初代教会の誕生」

使徒2：41～47

1. はじめに

(1) ペテロの第1回目のメッセージを学んだ。

- ①そのメッセージは、使徒の働きの手台となるものである。
- ②そのメッセージのゴールは、「イエスは主でありメシアである」というもの。

(2) 前回のメッセージの最後の言葉

Act 2:40 ペテロは、このほかにも多くのことばをもって、あかしをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って彼らに勧めた。

- ①悔い改めるとは、ナザレのイエスは主でありメシアであると信じること。
- ②悔い改めるとは、イエスを拒否した世代と決別すること。
- ③ペテロの呼びかけに、多くの人たちが応答した。

(3) メッセージのアウトライン

- ①初代教会の誕生（41 節）
- ②初代教会の弟子訓練（42～43 節）
- ③初代教会の特徴（44～47 節）

結論：

- (1) 使徒の働き区分
- (2) 使徒の働き2章のまとめ

初代教会の誕生とその特徴について学ぶ。

I. 初代教会の誕生（41 節）

1. 41 節

Act 2:41 そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。

(1) 「彼のことばを受け入れた者」

- ①ペテロのメッセージに「悔い改め」をもって応答した人
- ②その人たちは、信じた時点で救われている。
- ③彼らには、聖霊の内住が与えられている。
- ④聖霊は、「信者をバプテスマする働き」を開始された。
- ⑤その結果、教会が誕生した。

(2) 「バプテスマを受けた」

- ①ユダヤ人のバプテスマは、浸礼しかない。
- ②これは、不信仰な世代から分離し、キリストと一体化したことを示す。
- ③これは、信じて救われた人が受けるバプテスマである。

＊内的信仰の外的表現

(3) 「その日、三千人ほどが弟子に加えられた」

- ①神殿の南側には、およそ 200 の洗礼槽があった（考古学者の見解）。

＊数十に及ぶ洗礼槽が発掘されている。

- ②三千人の洗礼を短時間の内に行うことは、十分に可能である。

＊使徒たちが洗礼を受けたかどうかは、定かでない。

- ③彼らは、「弟子」となった。

＊巡礼者も多数いた。彼らは、それぞれの国に帰って行った。

- ④人数が概数になっていることに注意すべきである。

＊この中には、本当の信者でない者も含まれると考える学者もいる。

- (4) ペテロはイエスのことばを思い出したことであろう。

Mat 4:19 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」

Joh 14:12 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行うわざを行い、またそれよりもさらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。

Ⅱ. 初代教会の弟子訓練（42～43 節）

1. 42 節

Act 2:42 そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。

- (1) 決心した信者たちの弟子訓練が継続して行われた。

- ①ルカは、初代教会の温かい雰囲気を伝えようとしている。

(2) 訳文の比較

「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた」（新改訳）

「彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしてい

た」（新改訳 2017）

「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」

（新共同訳）

「そして一同はひたすら、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた」（口語訳）

①彼らは、熱心であった。

②熱心は英語で「enthusiastic」である。

＊ギリシア語で「entheos」である。

＊「内に神をいただいている」「神に捕らえられている」という意味である。

③この熱心さは、人間の努力ではなく、内住の聖霊の力による。

(3) 彼らは、2 つのことに熱心であった。

①「使徒たちの教え」

＊公生涯の間に、イエスが使徒たちに教えた内容である。

＊聖霊が、使徒たちにその内容を思い出させた。

＊最初は口頭での伝達であったが、今は新約聖書に記録されている。

②「信徒の交わり」

＊ギリシア語で「コイノニア」である。

＊この世から呼び出され（聖別）、神の家族となった。

＊「パンを裂き」という言葉は、食事と聖餐式の両方を含む。

＊後に、愛餐（食事会）に問題が起こるようになり、その習慣は終わった。

＊「祈りをしていた」の「祈り」には定冠詞が付いている。

＊つまり、神殿での祈りである。

2. 43 節

Act 2:43 そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議としるしが行われた。

(1) 一同の心に畏怖の念が与えられた。

①聖霊による畏怖の念である。

(2) 「多くの不思議としるし」

①使徒たちの教えの信頼性を証明するための奇跡である。

Ⅲ. 初代教会の特徴（44～47 節）

1. 44～45 節

Act 2:44 信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。

Act 2:45 そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。

(1) 物の共有

① 貧しい兄弟たちのために、自分の持ち物を売って分配していた。

② モーセの律法の実践である。

Deu 15:4 そうすれば、あなたのうちには貧しい者がなくなるであろう。あなたの神、【主】が相続地としてあなたに与えて所有させようとしておられる地で、【主】は、必ずあなたを祝福される。

＊7 年ごとの負債の免除

③ キリストの再臨は近いという意識が、この考え方の背後にある。

(2) これは実際に起こったことの記録であって、普遍的に適用すべき教えではない。

① この習慣は、エルサレム教会だけのものであった。

＊使徒の働きの中で、他の教会がこの習慣を採用したという記録はない。

② この習慣は、最初の数年で終わった。

＊飢饉が襲ってくると、エルサレムの教会は貧しい教会となった。

＊使 11 : 28～29、24 : 17、ロマ 15 : 26～27、ガラ 2 : 10

(3) しかし、この習慣から学ぶべき適用は今もある。

① 隣人愛の実践のひとつは、富の分かち合いである。

2. 46～47 節

Act 2:46 そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

Act 2:47 神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。

(1) 神殿に上る。

① エルサレムに住む敬虔なユダヤ人にとっては、当然のことである。

② 日々の祈りの時間

③ 祭りの期間

④ 彼らはまだユダヤ教とは切り離されていなかった。

(2) 家でパンを裂き、食事をともにし、神を賛美した。

①彼らは、家々を回りながら、聖餐式と愛餐式を行った。

＊食事なしに何かが起こることは、中東文化ではあり得ない。

②食事の席は、みことばを学び、祈り、賛美する場でもあった。

③教会史の最初の 200 年間は、家の教会が中心であった。

＊家の教会の重要性については、先に行ってから述べるつもりである。

(3) 「すべての民に好意を持たれた」

①この段階では、ユダヤ人社会はまだ教会を脅威とは見なしていなかった。

＊この平和な状況は、すぐに消え去っていく。

＊闇は光を憎むからである。

②「主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった」

＊福音に応答するのは、人間の側の責務である。

＊人が救われるのは、神の御業である。

結論：

1. 使徒の働きの区分

(1) 宣教活動の地理的広がりによる区分

Act 1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

(2) 主役による区分

①ペテロが中心

②パウロが中心（13 章以降）

(3) 教会の成長による区分

①2：47

②6：7

③9：31

④12：24

⑤16：5

⑥19：20

⑦28：30～31

Act 28:30 こうしてパウロは満二年の間、自費で借りた家に住み、たずねて来る人たちをみな迎えて、

Act 28:31 大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。

2. 使徒の働き 2章のまとめ

(1) 五旬節の祭りの預言的意味は、聖霊降臨によって成就した。

Act 2:1 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。

①「五旬節の日が満ちた時」（回復訳）

(2) シナイ山では、不信仰のゆえに三千人が殺された（金の子牛事件）

Exo 32:27 そこで、モーセは彼らに言った。「イスラエルの神、【主】はこう仰せられる。おのおの腰に剣を帯び、宿営の中を入口から入口へ行き巡って、おのおのその兄弟、その友、その隣人を殺せ。」

Exo 32:28 レビ族は、モーセのことばどおりに行った。その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた。

①エルサレムでは、信仰のゆえに三千人が救われた。

2Co 3:6 神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです。

(3) 使徒の働き 2章は、シナイ山での物語の続編である。

①いかなる外的感動や体験も、人の心を変えることはできない。

②聖霊による新生によってのみ、人の心は変わる。

③幕屋と神殿に宿られた神は、今や私たちの内側に住んでおられる。

④聖霊は、私たちの心に愛の律法を刻まれた。

Jer 31:33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

「生まれつき足の不自由な人の癒し」

使徒3：1～11

1. はじめに

(1) ペンテコステの日に教会が誕生した。

①ペテロの第1回目のメッセージにより、3,000人ほどの人たちが弟子となった。

②初代教会は、暖かさと畏怖の念が共存する群れであった。

③3：1～4：31まで、教会への最初の迫害が記録されている。

(2) 前回のメッセージで確認した初代教会の描写

①使2：42～43

Act 2:42 そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをして
いた。

Act 2:43 そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議としるしが行われ
た。

②「不思議」は「テラス」。畏怖の念を引き起こす奇跡。

③「しるし」は「セイメイオン」。使徒たちの権威を証明する奇跡。

④きょうの箇所ではルカは、忘れがたいひとつの奇跡を取り上げている。

*迫害が始まるきっかけとなった奇跡である。

*ペテロに2回目のメッセージを語る機会を与えた奇跡である。

*その結果、5,000人ほどの人たちが信じた。

(3) メッセージのアウトライン

①癒しの背景（1～3節）

②癒しの方法（4～8節）

③癒しの結果（9～11節）

結論：

(1) メシアニック・ジューとユダヤ教の伝統

(2) 祈りの答え

生まれつき足の不自由な人の癒しについて、学ぶ。

I. 癒しの背景（1～3節）

1. 1節

Act 3:1 ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。

(1) ペテロとヨハネ

- ①12 使徒の中でイエスに最も近かったのは、ペテロ、ヤコブ、ヨハネであった。
- ②ここでは、ペテロが主役で、ヨハネが脇役になっている。

(2) 午後 3 時の祈りの時間に彼らは神殿に上って行った。

- ①ユダヤ教では、神殿ないし会堂での祈りが日に 3 度行われていた。
 - *午前 9 時と午後 3 時の祈りは、必須の祈りであった。
 - *朝と夕のいけにえを捧げる時間に対応していた。
 - *夕のいけにえは、午後 2 時半ごろに捧げ始められた。
 - *正午の祈りは、自発的なものとして追加された祈りである。
- ②今日でも、正統派のユダヤ人は、日に 3 度祈りを捧げる（祈禱書を用いる）。
 - *朝の祈りはシャハリート（朝の光）。
 - *午後の祈りはミンハー（ささげ物）。
 - *夕べの祈りはマアリヴ（夕方）。
- ③敬虔なユダヤ人であった彼らにとっては、神殿に上ることは当然のことだった。

(3) イエスをメシアと信じる信仰とユダヤ教との分離は、徐々に起こった。

- ①初代教会の信者は全員ユダヤ人であった。
- ②彼らは、ユダヤ教の習慣を守ることになんの矛盾も感じていなかった。
 - *割礼の実行
 - *安息日の遵守
 - *食物規定の遵守
- ③初期の教会は、数あるユダヤ教の分派の中のひとつに過ぎなかった。
- ④教会と他の分派を区別する要素は、「ナザレのイエスはメシアである」という信仰告白である。

(4) ルカは、初期の教会がユダヤ教の習慣を守っていたことを非難していない。

- ①当時のユダヤ人にとっては、ユダヤ教は宗教生活だけでなく、社会生活や経済生活まで規定する規範であった。
- ②後に、異邦人を教会に迎える段階で、ユダヤ教の習慣の見直しが必要となった。

2. 2～3 節

Act 3:2 すると、生まれつき足のなえた人が運ばれて来た。この男は、宮に入る人たちから施しを求めるために、毎日「美しの門」という名の宮の門に置いてもらっていた。

Act 3:3 彼は、ペテロとヨハネが宮に入ろうとするのを見て、施しを求めた。

- (1) 「美しの門」（ニックネーム）がどれかについては、3 つの可能性がある。
 - ①町の外から神殿域に入る門（今日の黄金門の辺り）
 - ②異邦人の庭から婦人の庭に入る門（これが、美しの門であろう）
 - ③婦人の庭からイスラエルの庭に入る門（ニカノルの門。②をニカノルの門と呼ぶ人もいる）
- (2) その門にひとりの男が運ばれてきた。
 - ①生まれつき足の不自由な人（40 歳あまり）
 - * 「生まれつき」とは、この癒しの偉大さを示す言葉である。
 - ②施しを求めるために、毎日、そこに置いてもらっていた。
 - ③そこは、「物乞い業」の一等地であった。
 - ④エルサレム中の人たちが、この男の顔を知っていた。
 - ⑤荘厳な門と足の不自由な男の対比は、制度的宗教の無力さを示すものである。
- (3) ユダヤ教では、「施し」は賞賛されるべき善行とされている。
 - ①「施し」は、「ツェザカー」である。「正義」、「義」という意味。
 - ②ユダヤ人社会では、物乞いになるのは、他に方法がない場合に限定される。
 - * この男の場合は、友人たちが彼を手助けしている。
 - * 物乞いしか収入を得る方法がなかった（それで 40 年間生活してきた）。
- (4) 彼は、ペテロとヨハネが神殿に入ろうとするのを見て、施しを求めた。
 - ①施しを求めている相手が誰かを知らなかった。
 - ②彼らがどういう施しを与えてくれるのかも、知らなかった。

II. 癒しの方法（4～8 節）

1. 4～5 節

Act 3:4 ペテロは、ヨハネとともに、その男を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。

Act 3:5 男は何かもらえると思って、ふたりに目を注いだ。

- (1) ペテロは、その男と個人的に関わることを開始した。
 - ①その男は単なる物乞いではない、神の愛の対象である。
 - ①「私たちを見なさい」とは、自分たちに関心を引きつけるための言葉ではない。
 - ②これから語ることに意識を集中させるための言葉である。
- (2) その男は、ふたりに目を注いだ。

- ①この言葉に従えば多額の施しを受けることができると、期待したのであろう。
- ②通常は、小銭を投げ入れてその場を去って行くものである。

(3) ペテロとヨハネは、金銭を与えようとしたのではない。

- ①もしそうなら、信者の群れに向って、持ち物を売ってこの男に施しをしようと呼びかけたはずである。
- ②彼らは、力強い信仰を発揮し、それを通してメシアの力を示そうとした。

2. 6～7 節 a

Act 3:6 すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言って、

Act 3:7a 彼の右手を取って立たせた。

(1) 「金銀は私にはない」

- ①これは、その男を失望させる言葉である。

(2) 「しかし、私にあるものを上げよう」

- ①これは、その男に期待感を抱かせる言葉である。

(3) 「ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」

- ①これは、おまじないの言葉ではない。
- ②ペテロは、自分には力がないことを表明しているのである。
- ③イエス・キリストの代理人として、その權威によって命じている。
- ④この言い方が、使徒の働きには 23 回出て来る。
- ⑤それぞれが、イエス・キリストの權威の広がりと深さを証明している。
- ⑥イエス・キリストの名を呼ぶことは、神の名を呼ぶことである。

(4) 「彼の右手を取って立たせた」

- ①ペテロは、この男が歩き始めるために右手を取って立たせた。
- ②この奇跡は、人間の側の努力と神の力が一つになって起こったものである。

3. 7b～8 節

Act 3:7b するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、

Act 3:8 おどり上がってまっすぐに立ち、歩きだした。そして歩いたり、はねたりしながら、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮に入って行った。

(1) この癒しは、瞬間的なものである。

①40年間歩いたことのない人が、瞬時に歩き始めたのである。

②「足とくるぶしが強くなり」は、医者ルカによる解説である。

(2) この男の動きが詳細に描写されている。

①「おどり上がって」

②「まっすぐに立ち」

③「歩きだした」

④「歩いたり」

⑤「はねたりしながら」

(3) 彼は、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮に入って行った。

①間違いなく物乞い業を失業するのであるが、彼にはそれ以上の喜びがある。

②彼は人生で初めて、異邦人の庭から婦人の庭に入ったのであろう。

*2 サム5:8 参照

Ⅲ. 癒しの結果 (9～11 節)

1. 9～10 節

Act 3:9 人々はみな、彼が歩きながら、神を賛美しているのを見た。

Act 3:10 そして、これが、施しを求めるために宮の「美しの門」にすわっていた男だとわかると、この人の身に起こったことに驚き、あきれた。

(1) 神殿の中では、彼は騒々しいので人目についた。

①彼は、歩きながら神を賛美した。

②歩くことができる能力は、神の賜物である。

(2) それを見た人々は、腰を抜かすほど驚いた。

①使用前：「美しの門」に座っていた男

②使用后：歩きながら神を賛美している。

2. 11 節

Act 3:11 この人が、ペテロとヨハネにつきまとっている間に、非常に驚いた人々がみないっせいに、ソロモンの廊という回廊にいる彼らのところに、やって来た。

(1) 「つきまとう」というよりは、「しがみつく」が正解であろう。

①「the man was holding tightly to Peter and John.」(NLT)

②肉体的にも、精神的にも、ひとり歩きは不安であった。

(2) 彼が広告塔になって、驚いた人々が多数ペテロとヨハネのところにやって来た。

- ①ソロモンの廊とは、神殿の東側を南北に走る廊である。
- ②ラビたちがそこで律法を教えた。討論も行われた。
- ③屋根が付いているので、夏は涼しく、冬は暖かかった。
- ④かつて主イエスが教えた場所で、ペテロはメッセージを語る。

結論：

1. メシアニック・ジューとユダヤ教の伝統

- (1) 初期の教会では、イエスを信じる信仰とユダヤ教とは未分化の状態にあった。
- (2) この時期は、移行期である。
- (3) この時期に起きていることを、今の私たちに適用してはならない。
- (4) ヘブ 13:13

Heb 13:13 ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、もとに行こうではありませんか。

- (5) 現代のメシアニック・ジューはどうしているのか。
 - ①ユダヤ教の伝統から離れる人とそこに回帰する人がいる。
 - ②いずれにしても、ユダヤ教の伝統を守ることは救いの条件ではない。
 - ③それを理解しているなら、メシアニック・ジューには自らのライフスタイルを選ぶ権利がある。
 - ④ちなみに、異邦人はユダヤ教の伝統とはそもそも無関係である。

2. 祈りの答え

(ILL) 彼は「alms を求めたのに、足を得た」

- (1) 彼は、自分にとって良きものを求めた。それが施しである。
- (2) しかし、ペテロとヨハネは、最善のものを与えた。それが足の癒しである。
- (3) 神への願いは、聞かれていないと感じても、実は聞かれている。

(ILL) トマス・アクィナスが法王を訪問した時のこと

- ①法王は、多額の金を数えながらこう言った。「金銀は私にはないという時代は終わった」
- ②トマス・アクィナスは答えた。「そしてペテロとともに、『ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい』と言えた時代も終わった。

「ペテロの第 2 のメッセージ（1）」

使徒 3：12～16

1. はじめに

(1) ペンテコステの日に教会が誕生した。

- ①ペテロの第1回目のメッセージにより、3,000 人ほどの人たちが弟子となった。
- ②初代教会は、暖かさと畏怖の念が共存する群れであった。
- ③3：1～4：31 まで、教会への最初の迫害が記録されている。
- ④「使徒たちによって多くの不思議としるしが行われた」（2：43）
- ⑤そのひとつの例が、生まれつき足の不自由な人の癒しである。
 - *これは、迫害が始まるきっかけとなった奇跡である。
 - *これは、ペテロに 2 回目のメッセージを語る機会を与えた奇跡である。
 - *その結果、5,000 人ほどの人たちが信じるようになる。

(2) 前回学んだ内容

- ①癒された男が、ペテロとヨハネにすがりつき、大声で神を賛美した。
- ②多くの人たちがいっせいにソロモンの廊にいる彼らのところにやって来た。
- ③ペテロは、この機会を利用してメッセージを語った。
 - *ユダヤ人がユダヤ人に向けてメッセージを語っている。
 - *旧約聖書を用いた伝道メッセージである。
- ④ペテロの第 2 回目のメッセージを 2 回に分けて学ぶ。

(3) メッセージのアウトライン

- ①癒しの理由（12～13 節 a）
- ②罪の糾弾（13b～15 節 a）
- ③信仰の力（15b～16 節）

結論：

- (1)「イスラエル人たち」という呼びかけ
- (2)「イスラエル」という名前にふさわしくない行為

ペテロの第 2 回目のメッセージの前半を学ぶ。

I. 癒しの理由（12～13 節 a）

1. 12 節

Act 3:12 ペテロはこれを見て、人々に向かってこう言った。「イスラエル人たち。なぜこのことに驚いているのですか。なぜ、私たちが自分の力とか信仰深さとかによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。」

(1) ペテロは、キリストを証しする機会が再びやって来たことを認識した。

①「イスラエル人たち」という呼びかけ。正式な呼びかけの言葉である。

(2) この癒しは、人間の力や信仰深さによるものではない。

①ユダヤ人の認識では、奇跡を行う人はその敬虔さのゆえにそれを行うとされた。

*神は、彼らの願いを無視できないのだ。

*この理解では、人間の側の信仰深さや敬虔さが強調されている。

②ルカは、使徒たちは普通の人たちであることを強調している。

*「なぜ、私たちを見つめるのですか」

*同じ動詞が、使 3:4 で用いられていた。

*復活したイエスが、このことを行なっておられるのだ。

2. 13 節 a

Act 3:13a アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち、私たちの父祖たちの神は、そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。

(1)「アブラハム、イサク、ヤコブの神」

①ユダヤ人が日々の祈りで唱える御名である。

②神が「アブラハム契約の神」であることが強調されている。

(2)「私たちの父祖たちの神」

①聴衆の多くが、先ほどまで唱えていた御名である。

②これは、ユダヤ人にとってはなじみ深い御名である。

③「アミダー (Amidah)」という立祷の中に出て来る。

*18 祈禱文 (Shmoneh Esreh)

④出 3:13

Exo 3:13 モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました』と言えば、彼らは、『その名は何ですか』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」

⑤「私たちの父祖たちの神」とは、アブラハム契約の神である。

(3)「そのしもべイエス」

①イエスは、「【主】(ヤハウェ) のしもべ」として地上に下ったお方である。

*イエスは、アブラハム契約の成就として来られた。

②「【主】のしもべ」という概念は、ユダヤ人たちにはよく知られていた。

③イザヤ書には、「【主】のしもべ」に関する預言が多く含まれていた。

*イザ 42：1、49：6～7、52：13、53：11

④これらの預言は、以下のことを示している。

*【主】のしもべの使命

*【主】のしもべの受難

*【主】のしもべの高揚

⑤マタ 12：15～21

Mat 12:15 イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。すると多くの人がついて来たので、彼らをみないやし、

Mat 12:16 そして、ご自分のことを人々に知らせないようにと、彼らを戒められた。

Mat 12:17 これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。

Mat 12:18 「これぞ、わたしの選んだわたしのしもべ、／わたしの心の喜ぶわたしの愛する者。／わたしは彼の上にわたしの霊を置き、／彼は異邦人に公義を宣べる。

Mat 12:19 争うこともなく、叫ぶこともせず、／大路でその声を聞く者もない。

Mat 12:20 彼はいたんだ葦を折ることもなく、／くすぶる燈心を消すこともない、／公義を勝利に導くまでは。

Mat 12:21 異邦人は彼の名に望みをかける。」

(4)「そのしもべイエスに栄光をお与えになりました」

①イエスは十字架に付けられた（聴衆がみんな知っている事実）。

②そのイエスが復活し、天に上げられた。

II. 罪の糾弾（13b～15節 a）

1. 13節 b

Act 3:13b あなたがたは、この方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その面前でこの方を拒みました。

(1) ここから、ユダヤ人の罪の糾弾が始まる。

①罪とは、イエスを拒否したことである。

②ピラトは、イエスを釈放すると決めていた。

③しかしユダヤ人たちは、イエスを拒んだ。

2. 14～15節 a

Act 3:14 そのうえ、このきよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、

Act 3:15 いのちの君を殺しました。

(1) 「きよい方」 (the Holy One)

①ダビデの預言（詩 16：10）から出た言葉である。

Psa 16:10 まことに、あなたは、私のたましいを／よみに捨ておかず、／あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。

②この聖句は、第 1 回目のメッセージでペテロが引用したものである。

*イエスの復活の証明

③ユダヤ教の文献では、「きよい方」とは神を指す。

④「きよい方」は、キリストの神性を示している。

(2) 「正しい方」 (the Righteous One)

①イザヤの預言（イザ 53：11）から出た言葉である。

Isa 53:11 彼は、自分のいのちの／激しい苦しみのあとを見て、満足する。／わたしの正しいしもべは、／その知識によって多くの人を義とし、／彼らの咎を彼がになる。

②「正しい方」は、キリストの罪なき人性を示している。

(3) 「いのちの君」

①イエスは、いのちの創造主である。

②イエスは、いのちの源である。

③イエスは、私たちに永遠のいのちを与えてくださるお方である。

(4) ユダヤ人の罪とは

①祭りが終わっているので、聴衆はほとんどがエルサレムの住民である。

②彼らもまた、イエスを拒み、バラバを赦免するように要求した。

*バラバは、「人殺しの男」である。革命家を擁護する人たちを一蹴した。

③ユダヤ人たちは、人殺しを助け、いのちを与えてくださる方を殺した。

*ここには、大いなるアイロニー（皮肉）がある。

Ⅲ. 信仰の力 (15b～16 節)

1. 15 節 b

しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。

(1) 神の計画は、人間の想像を超えたものである。

①神は、イエスを死者の中から復活させた。

②ペテロとヨハネは、そのことの証人である。

2. 16 節

Act 3:16 そして、このイエスの御名が、その御名を信じる信仰のゆえに、あなたがたがいま見ており知っているこの人を強くしたのです。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの目の前で完全なからだにしたのです。

(1) 聴衆は、その日、復活のイエスの力の証人となった。

①「御名」は、その人の実体を表わす。

②この男が癒されたのは、復活のイエスの力による。

(2) 「その御名を信じる信仰のゆえに」

①この男は、イエスの御名を信じたのである。

②イエスがメシアであることを信じた。

結論：

1. 「イスラエル人たち」という呼びかけ

(1) 訳文の比較

①「イスラエル人たち」（新改訳）

②「イスラエルの皆さん」（新改訳 2017）

③「イスラエルの人たち」（新共同訳）（口語訳）

④「イスラエルの人々」（文語訳）

⑤「men of Israel」（ASV）

(2) これは、正式な呼びかけの言葉である。

①集まって来た男性たちへの呼びかけの言葉

* 婦人たちは、午後 3 時の祈りの時間に神殿に上ることはほとんどなかった。

②「イスラエル」とは、契約の民に与えられた名称である。

* 彼らは、ヤコブの子孫たちである。

* バビロン捕囚以降、ユダヤ人という名前が一般的になった。

* 本来は、彼らは契約の民イスラエルである。

③ここでペテロは、意図的に融和的な名称を用いている。

④それが、「兄弟たち」という普段の呼びかけに変わる（17 節）。

2. 「イスラエル」という名前にふさわしくない行為

(1) ペテロは、彼らの 4 つの罪を指摘した。

- ①イエスを引き渡した（裁判のために異邦人に引き渡した）。
 - ②ピラトが釈放すると決めたのに、その面前でイエスを拒んだ。
 - ③きよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求した。
 - ④いのちの君を殺した。
- (2) しかし神は、イエスを擁護された。
- ①神はイエスを死者の中から復活させた。
 - ②神はご自身のしもべに栄光を与えた。
- (3) 今もイスラエルの人々は、イエスを拒否している。
- ①「アミダー（Amidah）」（18 祈禱文）（Shmoneh Esreh）は、19 祈禱文になった。
 - ②イエスを信じる者を会堂から排除するために、12 番目が追加された。
- 「背教者からすべての希望を取り去り給え。分派を作る者は、直ちに滅ぶべし」
- (4) 回心とは、本来の姿に戻ることである。
- ①ユダヤ人にとっては、イエスをメシアとして信じることである。
 - ②異邦人にとっては、イエス・キリストを通して父なる神に立ち返ることである。

「ペテロの第 2 のメッセージ（2）」

使徒 3：17～26

1. はじめに

(1) ペンテコステの日に教会が誕生した。

①ペテロの第1回目のメッセージにより、3,000 人ほどの人たちが弟子となった。

②初代教会は、暖かさと畏怖の念が共存する群れであった。

③「使徒たちによって多くの不思議としるしが行われた」（2：43）

④そのひとつの例が、生まれつき足の不自由な人の癒しである。

＊これは、迫害が始まるきっかけとなった奇跡である。

＊これは、ペテロに 2 回目のメッセージを語る機会を与えた奇跡である。

(2) 前回学んだ内容（ペテロの第 2 のメッセージの前半）

①ペテロは、「イスラエルの人々」という呼びかけでメッセージを始めた。

②この男の癒しは、復活したイエスの力によるものである。

③イエスを信じる信仰が、この男を強くした。

④今回は、第 2 のメッセージの後半を学ぶ。

＊ユダヤ人がユダヤ人に向けてメッセージを語っている。

＊旧約聖書を用いた伝道メッセージである。

(3) メッセージのアウトライン

①ユダヤ人たちの無知（17～18 節）

②悔い改めがもたらす 3 つの祝福（19～21 節）

③モーセの預言（22～24 節）

④アブラハム契約の子孫（25～26 節）

結論：

(1) 使 1：6 への回答

Act 1:6 そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」

(2) 第 2 のメッセージの強調点

ペテロの第 2 回目のメッセージの後半を学ぶ。

I. ユダヤ人たちの無知（17～18 節）

1. 17 節

Act 3:17 ですから、兄弟たち。私は知っています。あなたがたは、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行いをしたのです。

(1) ここからペテロの語り口が変化する。

①「ですから」ではなく、「さて」（新改訳 2017）がよい。

②「イスラエルの人々」→「兄弟たち」

＊正式な呼称を用いた説明→親密な関係に基づく奨励

(2) 民は、指導者たちとともにイエスを拒否し、異邦人に引き渡した。

①その原因は、「無知」にある。

②ホセ 4：6

Hos 4:6 わたしの民は知識がないので滅ぼされる。／あなたが知識を退けたので、／わたしはあなたを退けて、わたしの祭司としない。／あなたは神のおしえを忘れたので、／わたしもまた、あなたの子らを忘れよう。

(3) ユダヤ人たちは無知のためにイエスを拒否したと言えるだろうか。

①イエスは、旧約聖書が預言するメシアであった。

②イエスは、数々のしるしを行い、ご自身がメシアであることを証明された。

③しかしユダヤ人たちは、イエスが受肉した人であることを認めなかった。

④彼らは、メシアが勝利の王として来られると信じていた。

⑤彼らは、イエスを詐欺師と考えた。

⑥恐らく、イエスを殺すことが神への奉仕になると考えたことであろう。

(4) 無知で犯した罪は赦される。

①民 15：22～31 には、あやまって罪を犯した場合の規定がある。

②ルカ 23：34

Luk 23:34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。

③1 コリ 2：8

1Co 2:8 この知恵を、この世の支配者たちは、だれひとりとして悟りませんでした。もし悟っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。

2. 18 節

Act 3:18 しかし、神は、すべての預言者たちの口を通して、キリストの受難をあらかじめ語っておられたことを、このように実現されました。

- (1) ユダヤ人たちとは異なり、神は知識を持って行動された。
 - ①キリストの受難は、預言者たちの口を通して預言されていた。
 - ②キリストを苦しめたのは、ユダヤ人たちであった。
 - ③そのユダヤ人たちに対して、キリストはご自身を主、救い主として提示された。
 - ④ユダヤ人たちは、キリストを通して罪の赦しを受けることができる。

II. 悔い改めがもたらす3つの祝福(19～21節)

1. 19～20節

Act 3:19 そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。

Act 3:20 それは、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにメシヤと定められたイエスを、主が遣わしてくださるためなのです。

- (1) 使2:38と同じ勧めが語られる。

Act 2:38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」

- (2) 悔い改めとは、イエスに関する認識を変えることである。
 - ①イエスを主として。また、救い主として受け入れることである。
 - ②悔い改めは3つの祝福をもたらす。
 - ③このメッセージは、イスラエルの人々に向けて語られていることを覚えよう。

- (3) 1番目の祝福は、罪の赦しである。

- ①誰であっても、悔いあらためるなら、罪をぬぐいさっていただける。

- (4) 2番目の祝福は、千年王国の到来である。

- ①イスラエルの民族的悔い改めが、民族的救いと祝福の前提である。
 - ②「回復の時」とは、千年王国の成就の時である。

③訳文の比較

- * 「回復の時」(新改訳)(新改訳2017)
- * 「慰めの時」(新共同訳)(口語訳)
- * 「慰安(なぐさめ)の時」(文語訳)

- ④「回復の時」が千年王国を指していることは、次に続く節からも明らかである。

(5) 3番目の祝福は、メシアの再臨である。

- ①「あなたがたのためにメシヤと定められたイエスを、主が遣わしてくださる」
- ②メシアの再臨と千年王国の成就是、連動している。

2. 21 節

Act 3:21 このイエスは、神が昔から、聖なる預言者たちの口を通してたびたび語られた、あの万物の改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。

(1) 「万物の改まる時」とは、千年王国のことである。

- ①「万物」とは、霊的なものだけではない。
- ②イエスは、千年王国が成就するまでは天に留まっている。
- ③この聖句を根拠に、患難期後携挙説を主張する人がいる。
*彼らは、携挙と再臨は同時に起こると考えている。

(2) その主張に対する反論

- ①携挙は、教会が天に上げられることである。
- ②ユダヤ人信者も異邦人信者も、教会の一員となった者は携挙に与る。
- ③その時イエスは、空中で信者を迎える。
*携挙は、いつでも起こり得る。
- ④携挙以降に信仰を持ったユダヤ人たちは、再臨の時にイエスに出会う。

Ⅲ. モーセの預言（22～24 節）

1. 22～23 節

Act 3:22 モーセはこう言いました。『神である主は、あなたがたのために、私のようなひとりの預言者を、あなたがたの兄弟たちの中からお立てになる。この方があなたがたに語ることはみな聞きなさい。』

Act 3:23 その預言者に聞き従わない者はだれでも、民の中から滅ぼし絶やされる。』

(1) メシアの来臨を預言した旧約聖書の預言者の例として、モーセが上げられる。

- ①イエスは「モーセのような預言者である」。
- ②モーセはメシアの到来を預言し、イエスはそれを成就した。
- ③モーセもイエスも、神によって立てられた預言者である。
- ④ユダヤ人の間には、「メシアはモーセのような預言者」という認識があった。

Joh 6:14 人々は、イエスのなさったしるしを見て、「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。

Joh 7:40 このことばを聞いて、群衆のうちのある者は、「あの方は、確かにあの預言者なの

だ」と言い、

(2) ペテロは、申 18 : 19 の警告のことばを引用する。

Deu 18:19 わたしの名によって彼が告げるわたしのことばに聞き従わない者があれば、わたしが彼に責任を問う。

①もちろん、不信仰な者は永遠の刑罰を受けるというのはその通りである。

②この文脈では、不信仰なユダヤ人は神の訓練を受けるという意味である。

2. 24 節

Act 3:24 また、サムエルをはじめとして、彼に続いて語ったすべての預言者たちも、今の時について宣べました。

(1) 「回復の時」が預言されていたことを強調するために、他の預言者にも言及する。

①「今の時」（新改訳）（新改訳 2017）（新共同訳）

②「この時」（口語訳）（文語訳）

③サムエルを初めとするすべての預言者たちが、千年王国について預言した。

④地上における千年王国は、ヘブル的希望である。

IV. アブラハム契約の子孫（25～26 節）

1. 25 節

Act 3:25 あなたがたは預言者たちの子孫です。また、神がアブラハムに、『あなたの子孫によって、地の諸民族はみな祝福を受ける』と言って、あなたがたの父祖たちと結ばれたあの契約の子孫です。

(1) イスラエルの民は、アブラハム契約の約束と祝福の受け手である。

①他のどの民族よりも、彼らはイエスをメシアとして受け入れるべきである。

②しかし、彼らはイエスを拒否した。

③ここに、ユダヤ人伝道のパラドックス（逆説）がある。

2. 26 節

Act 3:26 神は、まずそのしもべを立てて、あなたがたにお遣わしになりました。それは、この方があなたがたを祝福して、ひとりひとりをその邪悪な生活から立ち返らせてくださるためなのです。」

(1) 神は、主のしもべイエスをすでに遣わしてくださった。

①そのイエスを信じるなら、罪赦され、邪悪な生活から立ち返ることができる。

結論：

1. 使1:6への回答

Act 1:6 そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」

- (1) ペテロは、千年王国の成就の時について無知であった。
- (2) しかし、聖霊によって教えられた彼は、それを理解するようになった。
- (3) 千年王国の成就に至る道
 - ①イスラエルの民の民族的回心
 - ②彼らが、メシアに呼びかける。

Mat 23:39 あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」

*「バルフ ハ バ バシエム アドナイ」

- ③メシアの再臨
- ④千年王国の成就

Mat 19:28 そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。

2. ペテロの第2のメッセージの強調点

- (1) これは、ユダヤ人がユダヤ人に語ったメッセージである。
- (2) 中心テーマは、教会ではなく、千年王国である。
 - ①ユダヤ人の救いが、メシアの再臨と千年王国をもたらす。
- (3) 強調点は、ユダヤ人個人の救いではなく、ユダヤ人の民族的救いである。
- (4) ペテロは、千年王国の到来を早めるためのメッセージを語っている。
- (5) 異邦人である私たちの応答
 - ①レムナント（ユダヤ人の信者たち）への感謝
 - *彼らがいなければ、今の教会は存在しない。
 - ②アブラハム契約がユダヤ的契約であることの認識
 - *異邦人信者は、この契約の祝福に接ぎ木された。
 - ③ユダヤ人伝道の優先性の認識
 - *メシアの再臨と千年王国の成就是、ユダヤ民族の救いにかかっている。

「サンヘドリンの前に立つペテロとヨハネ（1）」

使徒4：1～12

1. はじめに

(1) 初代教会は、暖かさと畏怖の念が共存する群れであった。

①「使徒たちによって多くの不思議としるしが行われた」（2：43）

②そのひとつの例が、生まれつき足の不自由な人の癒しである。

③ペテロは、集まって来た群衆に向ってメッセージを語った。

＊この男の癒しは、復活したイエスの力によるものである。

＊イスラエルの民族的救いは、メシアの再臨とメシア的王国をもたらす。

④ペテロのメッセージの途中で邪魔が入った。

⑤ここから、ユダヤ教の権威との衝突が始まる。

(2) メッセージのアウトライン

①逮捕（1～4 節）

②裁判（5～6 節）

③弁明（7～12 節）

結論：

(1) 詩篇 118 篇

(2) 救いに至る唯一の道

サンヘドリンでの裁判の内容について学ぶ。

I. 逮捕（1～4 節）

1. 1 節

Act 4:1 彼らが民に話していると、祭司たち、宮の守衛長、またサドカイ人たちがやって来たが、

(1) 初代教会への最初の迫害が始まろうとしている。

①迫害は、宗教的指導者たちからやって来た。

(2) ルカは、3つのグループを上げている。

①祭司たち

＊ヨセフスによれば、当時、約2万人の祭司たちがいた。

＊24の組に分かれていたので、24人の祭司長たちがいた。

＊ここでの「祭司たち」とは、何人かの祭司長たちであろう。

②宮の守衛長

- *ヘブル語で「イシュ・ハル・ハバИАット」(神殿の丘の男)という。
- *神殿警察の長のような役割を果たした。
- *神殿域では、大祭司に次ぐ権威を有していた。

③サドカイ人たち

- *祭司たちも宮の守衛長も、サドカイ派に属していた。
- *ここでの「サドカイ人たち」とは、それ以外のサドカイ派の人たちである。
- *サドカイ派は、祭司たちと貴族階級の者たちから成っていた。
- *政治的には、親ローマである。一般大衆の支持はなかった。
- *神学的には、モーセの五書しか神のことばとして認めていなかった。
 - ・パリサイ派の口伝律法に強く反発した。
 - ・天使や悪霊の存在を否定した。
 - ・魂の永遠性を否定し、肉体の復活も否定した。

(3) W. Graham Scroggie (1877-1958) (英国人牧師、神学者) のコメント

- ①祭司たちは、宗教的非寛容の象徴である。
- ②宮の守衛長は、政治的敵意の象徴である。
- ③サドカイ人たちは、合理主義的不信仰の象徴である。

2. 2～3 節

Act 4:2 この人たちは、ペテロとヨハネが民を教え、イエスのことを例にあげて死者の復活を宣べ伝えているのに、困り果て、

Act 4:3 彼らに手をかけて捕らえた。そして翌日まで留置することにした。すでに夕方だったからである。

(1) 彼らが困り果てた理由

- ①使徒たちが神殿域で教えていることに反発した。
 - *無学な者たちがそこで教えることは許さない。
- ②使徒たちが死者の復活を宣べ伝えていることに反発した。
 - *サドカイ派の神学と対立する。

(2) 逮捕の理由

- ①すでに夕方であった。ユダヤの法では、日没後の裁判は禁止されていた。
 - *イエスの裁判では、それが無視された。
- ②サンヘドリン(ユダヤ議会)は、翌朝裁判を行うことにした。
- ③ペテロとヨハネ(恐らく癒された男も)は、神殿内の牢獄に留置された。

3. 4 節

Act 4:4 しかし、みことばを聞いた人々が大ぜい信じ、男の数が五千人ほどになった。

- (1) 信じた人の数は、男が 5000 人ほどになった。
 - ①すでに信じていた 3000 人の弟子たちを含む数だと主張する学者もいる。
 - ②自然に読めば、この日信じた男の数が 5000 人と読める。
 - ③「弟子の数」という言葉がない。
- (2) 伝える人が投獄されても、福音は縛られていない。
 - ①これが、使徒の働きを貫くテーマである。
 - ②ペテロとヨハネは投獄されたが、神のことばは生きて働いていた。

II. 裁判 (5～6 節)

1. 5 節

Act 4:5 翌日、民の指導者、長老、学者たちは、エルサレムに集まった。

- (1) 使徒の働きには、サンヘドリン（最高裁）での裁判が 4 回出て来る。
 - ①ここではペテロとヨハネが裁かれている。
 - ②使 5：27 では、使徒たち全員が裁かれている。
 - ③使 6：12 では、ステパノが裁かれている。
 - ④使 22：30 では、パウロが裁かれている。
- (2) サンヘドリンは、バビロン捕囚からの帰還後に設立された。
 - ①イスラエルの最高裁であり、国会である。
 - ②議員数は大祭司を含めて 71 名であった。
 - *サンヘドリンは、2つの政党から成る国会だと思えばよい。
 - ③サンヘドリンの権威は、ローマ帝国とヘロデ王朝の王の支配下に置かれた。
 - ④紀元 1 世紀のサンヘドリンは、ローマ帝国により大きな権威を認められていた。
 - *ただし、死刑宣告は認められていなかった。
 - *唯一の例外は、異邦人が隔ての中垣を超えて婦人の庭に侵入した場合。
- (3) ルカは、サンヘドリンを構成する 3 組の人たちを上げている。
 - ①民の指導者たち：24 人の祭司長たち
 - ②長老たち：パリサイ派の重鎮たち
 - ③学者たち：口伝律法の専門家たち（パリサイ人とサドカイ人）

＊彼らは、イエスの教えに強く反発した。

(4) 開廷のためには、最低 23 名の議員の出席が必要とされた。

①今回の場合も、71 名の議員が出席したと考える必要はない。

2. 6 節

Act 4:6 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル、そのほか大祭司の一族もみな出席した。

(1) 大祭司がイスラエルで最も大きな権威を有していた。

①この年の大祭司はカヤパであったが、黒幕はアンナスである。

②アンナスは、前 6 年～紀元 15 年まで大祭司であった（21 年間）。

③しかし、職を離れてからも、約 50 年間にわたって権威を振った。

＊5 人の息子たち、1 人の孫、1 人の義理の息子が大祭司になった。

＊イエスの予備審問は、アンナスが行った。

④神殿での商売をパリサイ人たちは、「アンナスの息子たちのバザール」と呼んだ。

＊宮清めをしたイエスは、アンナスの一家の敵となった。

(2) ヨハネとアレキサンデルについては、ここ以外に情報がない。

①そのほか大祭司の一族もみな出席した。

3. 7 節

Act 4:7 彼らは使徒たちを真ん中に立たせて、「あなたがたは何の権威によって、また、だれの名によってこんなことをしたのか」と尋問しだした。

(1) この言葉をもって裁判が始まった。

①ペテロとヨハネの行為は、権威への挑戦である。

＊つまり、サンヘドリンへの挑戦である。

②ペテロは、ユダヤ教の指導者たちに語りかける機会を初めて得た。

Ⅲ. 弁明（7～12 節）

1. 8 節 a

Luk 12:11 また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。

(1) イエスの約束の成就（ルカ 12：11～12）

Luk 12:11 また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。

Luk 12:12 言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」

2. 8b～10 節

Act 4:8b 「民の指導者たち、ならびに長老の方々。

Act 4:9 私たちがきょう取り調べられているのが、病人に行った良いわざについてであり、その人が何によっていやされたか、ということのためであるなら、

Act 4:10 皆さんも、またイスラエルのすべての人々も、よく知ってください。この人が直って、あなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのです。

(1) 尋問する側とされる側の立場が瞬時に逆転する。

- ①あなたがた（指導者たち）は、この男が癒されたことを喜んでいない。
- ②この男は何年も門の前で座っていたが、あなたがたは癒することができなかった。
- ③この男が直ったのは、ナザレ人イエス・キリストの御名による。

(2) そのイエス・キリストを、あなたがたは十字架に付けた。

- ①サンヘドリンの議員たちは、ほんの数週間前にイエスを異邦人に渡した。
- ②その記憶は、鮮明に残っている。
- ③神は、そのイエスを死者の中からよみがえらせた。

3. 11 節

Act 4:11 『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった』というのはこの方のことです。

(1) 詩 118 : 22 の引用によって、弁明を補強している。

- ①ユダヤ人たちは、この詩篇をよく知っていた。
- ②愚かな建築家たちとは、ユダヤ教の指導者たちである。
- ③彼らが捨てた石とは、イエス・キリストである。
- ④神は、イエス・キリストを救いの石とされた。

4. 12 節

Act 4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」

(1) ユダヤ人にとっては、これ以上の大胆な宣言はない。

- ①数週間前にイエスを裏切ったペテロが、この宣言をしている。

結論：

1. 詩篇 118 篇

- (1) 詩篇 113～118 篇は、「ハレルヤ詩篇」と呼ばれる。
- (2) 特に、巡礼祭（過越の祭り、五旬節の祭り、仮庵の祭り）で歌われた。
- (3) ペテロが引用した詩 118：22 は、すべてのユダヤ人の記憶に留まっていた。
- (4) 特に重要なのは、詩 118：26 である。

Psa 118:26a 【主】の御名によって来る人に、祝福があるように。

- (5) これは、ユダヤ人たちがメシアを迎える時の祈りである。
- (6) 蛇足であるが、詩 118：29 はヘブル語賛美「ホドゥ・ラドナイ」の歌詞である。

Psa 118:29 【主】に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。／その恵みはとこしえまで。

2. 救いに至る唯一の道

- (1) 使 4：12

Act 4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」

- (2) ペテロは、誰に向ってこの宣言をしたのか。
 - ①そこにいたのは、当時の正統派のユダヤ人たちである。
 - ②その彼らに向って、人はユダヤ教によってではなく、イエス・キリストによってのみ救われると宣言した。
- (3) これは、イエスの宣言と合致している。

Joh 14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

- (4) 使徒の働き全体を通して、使徒たちは誰に向ってこの宣言をしたのか。
 - ①偶像礼拝
 - ②魔術（占い）
 - ③ギリシア哲学
 - ④ギリシア・ローマの神々や女神たち
 - ⑤ユダヤ教
- (5) もしこれが真理でないなら、聖書のメッセージは茶番である。
 - ①使徒たちは、このために迫害に会い、殉教の死を遂げた。
 - ②イエスが救いに至る「もう一つの道」を提供しただけなら、イエスの十字架の死は茶番である。
- (6) ユダヤ人も異邦人も、すべての人がイエス・キリストを通して救われる。

「サンヘドリンの前に立つペテロとヨハネ(2)」

使徒4:13~31

1. はじめに

(1) ペテロとヨハネは、イエスの御名によって生まれつき足の不自由な人を癒した。

①ペテロは、集まって来た群衆に向ってメッセージを語った。

*この男の癒しは、復活したイエスの力によるものである。

②メッセージの途中で、ふたりは逮捕され、翌朝サンヘドリンの法廷で裁かれた。

(2) ペテロの弁明

①この男が直ったのは、ナザレ人イエス・キリストの御名による。

②そのイエス・キリストを、あなたがたは十字架に付けた。

③神は、そのイエスを死者の中からよみがえらせた。

「あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった」(詩118:22)

④この方以外には、だれによっても救いはない。

(3) アウトライン

①サンヘドリンの裁定(13~18節)

②ペテロとヨハネの応答(19~22節)

③信者の一致した祈り(23~31節)

結論：聖霊の満ちし

サンヘドリンでの裁判の内容について学ぶ。

I. サンヘドリンの裁定(13~18節)

1. 13~14節

Act 4:13 彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であることを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。

Act 4:14 そればかりでなく、いやされた人がふたりといっしょに立っているのを見ては、返すことばもなかった。

(1) サンヘドリンは、驚いた。

①ペテロとヨハネが大胆であったから(ヨハネも証言していた)。

*形式的宗教は、大胆さや熱心な伝道を嫌う。

②ふたりが無学な、普通の人であった(ガリラヤ訛り)。

*ユダヤ人男子は、シナゴグで基本的な聖書教育を受けていた。

*「無学」とは、ラビ教育を受けていないという意味である。

③ちなみに、新約聖書では、聖職者と平信徒の区別はない。

*これは、カトリック教会が導入した伝統である。

*ヤン・フス(ボヘミヤ)(1369～1415)は、万人祭司を主張し刑された。

(2) ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。

①ふたりの振る舞いや語り口調を見ながら、イエスを思い出した。

②ヨハ7:15

Joh 7:15 ユダヤ人たちは驚いて言った。「この人は正規に学んだことがないのに、どうして学問があるのか。」

③サンヘドリンが理解しなかったことがひとつある。

*ふたりは、聖霊に満たされて語っている。

(3) 癒された人がそばに立っていた。

①ペテロとヨハネの証言を裏付ける動かぬ証拠である。

*この奇跡は、イエス・キリストの御名によるものである。

2. 15 節

Act 4:15 彼らはふたりに議会から退場するように命じ、そして互いに協議した。

(1) 内密の協議が行われた。

①ペテロとヨハネを議会から退場させた。

②ふたりは癒しという善行を行ったので、有罪にする理由がない。

(2) 驚くべきことに、証拠を基にふたりの主張の正当性を論じることはしていない。

①これは、結論ありきの協議である。

3. 16～17 節

Act 4:16 彼らは言った。「あの人たちをどうしよう。あの人たちによって著しいしるしが行われたことは、エルサレムの住民全部に知れ渡っているから、われわれはそれを否定できない。

Act 4:17 しかし、これ以上民の間に広がらないために、今後だれにもこの名によって語ってはならないと、彼らをきびしく戒めよう。」

(1) 否定できない事実がある。

①ペテロとヨハネによって奇跡が行われた。

②エルサレムの住民全部がそれを知っている。

③それを否定すれば、自分たちに非難が向けられる。

(2) 最善の方法は、判決を下すことなく、握りつぶすことである。

①「今後だれにもこの名によって語ってはならない」と命じる。

＊「この名」(this name)「この男」(this man) というのは婉曲語である。

＊「イエス」という名を口にすることを避けている。

②「彼らをきびしく戒めよう」

＊「彼らを脅しておこう」(新改訳2017)

＊「脅しておこう」(新共同訳)

＊「おどしてやろうではないか」(口語訳)

＊つまり、処罰するぞと脅迫したのである。

(3) サンヘドリンは、ふたりの大胆さを過小評価した。

①脅迫すれば沈黙するにちがいないと思い込んだ。

4. 18 節

Act 4:18 そこで彼らを呼んで、いっさいイエスの名によって語ったり教えたりしてはならない、と命じた。

(1) ふたりに対して、2つのことを禁止した。

①個人的な会話の中でイエスについて語ってはならない。

②公のメッセージによってイエスについて教えてはならない。

II. ペテロとヨハネの応答 (19～22 節)

1. 19～20 節

Act 4:19 ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。

Act 4:20 私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」

(1) 無学な者が、知恵あるイスラエルの指導者たちに挑戦した。

①神に聞き従うよりも、人に聞き従うほうが、神の前に正しいのか。

②これで、立場が逆転した。

③もし指導者たちが正直であるなら、ふたりの言うことを認めたはずである。

(2) ペテロとヨハネは、神への忠誠心を第一にした。

①彼らは、イエスと生活をともにした。

- ②彼らは、イエスの十字架の死を目撃した。
- ③彼らは、イエスの埋葬、復活、昇天を目撃した。
- ④彼らは、目撃者として証言しないわけにはいかない。

2. 21～22 節

Act 4:21 そこで、彼らはふたりをさらにおどしたうえで、釈放した。それはみなのが、この出来事のゆえに神をあがめていたので、人々の手前、ふたりを罰するすべがなかったからである。

Act 4:22 この奇蹟によっていやされた男は四十歳余りであった。

(1) サンヘドリンの弱みは、ペテロとヨハネを処罰できないことである。

- ①奇蹟は確かに起こった。
- ②この奇蹟のゆえに、みなのが神を賛美していた。
- ③癒された男は有名な男で、年齢は40歳余りであった。

(2) そこで、ふたりをさらに脅したうえで釈放した。

Ⅲ. 信者の一致した祈り (23～31 節)

1. 23～24 節 a

Act 4:23 釈放されたふたりは、仲間のところへ行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったことを残らず報告した。

Act 4:24a これを聞いた人々はみな、心を一つにして、神に向かい、声を上げて言った。

(1) 釈放されたふたりは、苦難を仲間と共有した。

- ①これは、信者の特権であり、知恵である。
- ②サンヘドリンで言われたことを残らず報告した。
- ③教会は心を一つにして、祈った。

2. 24b～26 節

Act 4:24b 「主よ。あなたは天と地と海とその中のすべてのものを造られた方です。

Act 4:25 あなたは、聖霊によって、あなたのしもべであり私たちの父であるダビデの口を通して、こう言われました。／『なぜ異邦人たちは騒ぎ立ち、／もろもろの民はむなしいことを計るのか。

Act 4:26 地の王たちは立ち上がり、／指導者たちは、主とキリストに反抗して、／一つに組んだ。』

(1) 詩 146 : 6 の引用

Psa 146:6 主は天と地と海とその中のいっさいを造った方。／とこしえまでも真実を守り、

①「主よ」は、「キュリオス」ではなく、「デスポテイス」(デスポタ)である。

＊英語の「despot」(専制君主、独裁者、暴君)の語源である。

＊「デスポテイス」は、主人と奴隷の関係を表現する言葉である。

＊「デスポテイス」は、「完全な主人」という意味である。

②祈りの対象は、天地の創造主である神である。

(2) 詩2:1～2の引用

Psa 2:1 なぜ国々は騒ぎ立ち、／国民はむなしくつぶやくのか。

Psa 2:2 地の王たちは立ち構え、／治める者たちは相ともに集まり、／【主】と、主に油をそそがれた者と共に逆らう。

①これは、キリストがメシア的王国を設立される時に何が起こるかの預言である。

②二重著者

＊ダビデが人間の著者である。

＊聖霊が真の著者である。

③支配者たちは、神の計画を破壊しようとして立ち上がる。

④初期の信者たちは、この預言を当時の状況に適用した。

3. 27～28節

Act 4:27 事実、ヘロデとポンテオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民といっしょに、あなたが油をそそがれた、あなたの聖なるしもペイエスに逆らってこの都に集まり、

Act 4:28 あなたの御手とみこころによって、あらかじめお定めになったことを行いました。

(1)エルサレムで、ユダヤ人とローマ人は手を組んで聖なるしもペイエスに逆らった。

①ヘロデはユダヤ人の代表である。

②ポンテオ・ピラトはローマ人の代表である。

③イザ53章の「【主】のしもべ」(受難のしもべ)のイメージが含まれている。

④神は、受難のしもべを送ることを決めておられた。

⑤ユダヤ人とローマ人は悪を行ったが、それは神の計画に沿ったことであった。

4. 29～30節

Act 4:29 主よ。いま彼らの脅かしをご覧になり、あなたのしもべたちにみことばを大胆に語らせてください。

Act 4:30 御手を伸ばしていやしを行わせ、あなたの聖なるしもペイエスの御名によって、しるしと不思議なわざを行わせてください。」

(1) 3つの願い

- ①彼らの脅迫に目を留めてください。
- ②大胆にみことばを語らせてください。
- ③イエスの御名によって奇跡を行わせてください。

5. 31 節

Act 4:31 彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。

(1) 祈りに対する応答

- ①その場所が震い動いた。これは、そこに存在した霊的力の物理的表現である。
- ②出 19 : 18

Exo 19:18 シナイ山は全山が煙っていた。それは【主】が火の中であって、山の上に降りて来られたからである。その煙は、かまどの煙のように立ち上り、全山が激しく震えた。

- ②一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。
- ③聖霊の満たしが更新され、以前にも増して大胆になったということ。

結論：聖霊の満たし

1. 神のことばを語るための力

Act 2:4 すると、みな聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話し出した。

Act 4:8 そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。

Act 4:31 彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。

2. 奉仕のための力

Act 6:3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。

3. 牧会と伝道を成功させる力（アンテオケに派遣されたバルナバ）

Act 11:24 彼はりっぱな人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった。こうして、大ぜいの人が主に導かれた。

4. 神に敵対する者を叱責する力（魔術師エルマ）

Act 13:9 しかし、サウロ、別名でパウロは、聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、

5. 死を乗り越える力

Act 7:55 しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、

「第2回目の教会成長報告」

使徒4：32～37

1. はじめに

(1) ペテロとヨハネは、サンヘドリンから脅迫された。

①個人的な会話の中でイエス（この名）について語ってはならない。

②公のメッセージによってイエス（この名）について教えてはならない。

(2) 彼らは脅しに屈することはなかった。

①教会は一致して神に祈った。

②神はその祈りにお答えになった。

Act 4:31 彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語りだした。

③きょうの箇所は、その大胆な宣教活動がどのような実を結んだかの報告である。

(3) 第1回目の教会成長報告は、使2：42～47にあった。

①決心した信者たちの弟子訓練が継続して行われた。

Act 2:42 そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをして
いた。

②貧しい兄弟たちのために、自分の持ち物を売って分配していた。

Act 2:44 信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。

Act 2:45 そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。

2. アウトライン

(1) 教会の成長（32～33節）

(2) 相互扶助（34～35節）

(3) バルナバの例（36～37節）

結論：家の教会について

第2回目の教会成長報告について学ぶ。

I. 教会の成長（32～33節）

1. 32節

Act 4:32 信じた者の群れは、心と意思を一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものと言わず、すべてを共有にしていた。

(1) 「信じた者の群れ」

①イエスの復活を目撃した人は 500 人以上いた。

1Co 15:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。

②二階部屋で祈っていたのは、120 人ほどの兄弟たちであった。

Act 1:15 そのころ、百二十名ほどの兄弟たちが集まっていたが、ペテロはその中に立ってこう言った。

③ペンテコステの日に、3000 人ほどが弟子に加えられた。

Act 2:41 そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。

*この段階で、女性や子どもも含めると、約 1 万人の信者になった。

④ペテロの第 2 回目のメッセージによって、5000 人ほどが救われた。

Act 4:4 しかし、みことばを聞いた人々が大ぜい信じ、男の数が五千人ほどになった。

*この段階で、女性や子どもも含めると、約 2 万 5000 人の信者になった。

*ディアスポラのユダヤ人たちはエルサレムを離れたと思われる。

*それでも、2 万人前後の信者がエルサレムとその近郊にいたことになる。

⑤パリサイ派やサドカイ派との比較（ヨセフスが残した記録）

*パリサイ派の正式なメンバーは、約 6000 人。

*サドカイ派の正式なメンバーは、それよりもはるかに少数である。

*両派が教会を敵視する理由がよく分かる。

⑥使徒たちは、エルサレム教会の奉仕に手一杯で、外に出て行く余裕がなかった。

(2) 「心と意思を一つにして、…すべてを共有にしていた」

①キリストに愛による一致があった。

②その一致は、物の共有という形で表現された。

③必要が生じた場合、土地や家を売って、その代金を貧しい人に与えた。

④これは、富の平等を目指したものではない。

⑤また、私有財産を否定するものでもない。

⑥これは、イエスの弟子たちによる自発的な慈善の実行である。

2. 33 節

Act 4:33 使徒たちは、主イエスの復活を非常に力強くあかしし、大きな恵みとそのすべての者の上にあった。

(1) 神の御心に叶う行為は、神に喜ばれる。

①使徒たちの力強いあかし（超自然的な力）

②大きな恵み

Ⅱ. 相互扶助（34～35 節）

1. 34～35 節

Act 4:34 彼らの中には、ひとりも乏しい者がなかった。地所や家を持っている者は、それを売り、代金を携えて来て、

Act 4:35 使徒たちの足もとに置き、その金は必要に従っておのおのに分け与えられたからである。

(1) 相互扶助の原則

- ①信者の中に生活苦の者たちが出る。
- ②それを知った誰かが、自発的に地所や家を売り、金に変える。
- ③その金を教会に委ねる。
- ④使徒たちが責任をもって管理し、必要に従っておのおのに分け与えた。

(2) 使徒たちのこの奉仕は、後になって別の人たちに委譲されるようになる。

- ①使 6 : 1～6
- ②7 人のリーダーが選ばれる。

Ⅲ. バルナバの例（36～37 節）

1. 36～37 節

Act 4:36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちによってバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフも、

Act 4:37 畑を持っていたので、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

(1) バルナバの登場

- ①ルカはここでバルナバを登場させている。
- ②バルナバは、使徒の働きの中で重要な役割を演じるようになる。
- ③バルナバは、ここでは、慈善を実行した人物の例として登場する。

*アナニヤとサツピラとの対比のためである。

(2) バルナバという人物

- ①キプロス生まれのユダヤ人で、レビ人（レビ族の人）である。

*彼は、ディアスポラのユダヤ人であるが、今はエルサレムに住んでいる。

②本名は、ヨセフである。

③ニックネームは、「慰めの子」である。

＊「Son of consolation」

＊「子 (son)」は、その人の性質を表わす言葉である。

④エウセビオスの記録

＊バルナバは、イエスが派遣した70人の弟子たちのひとりである(ルカ10)。

⑤バルナバのいところがマルコである。

Col 4:10 私といっしょに囚人となっているアリスタルコが、あなたがたによろしくと言っています。バルナバのいところであるマルコも同じです——この人については、もし彼があなたがたのところに行ったなら、歓迎するようにという指示をあなたがたは受けています。——

(3) バルナバの行為

①「畑を持っていたので、それを売り、」

②モーセの律法では、レビ族の者は土地を所有することができなかった。

Num 18:23b 彼らはイスラエル人の中であって相続地を持つてはならない。

Num 18:24 それは、イスラエル人が、奉納物として【主】に供える十分の一を、わたしは彼らの相続財産としてレビ人に与えるからである。それゆえわたしは彼らがイスラエル人の中で相続地を持つてはならないと、彼らに言ったのである。」

③バルナバは、なぜ土地を所有していたのか。

＊この土地は、キプロス島の土地の可能性がある。

＊捕囚からの帰還以降、レビ族に対する土地所有禁止命令が緩やかになった。

＊その証拠に、サドカイ派の人たちは大金持ちになっていた。

(4) 使徒の働きが記録するバルナバの奉仕

①バルナバは、迫害が起こってもエルサレムから避難しなかった(8章)。

②パウロの友となった。

Act 9:26 サウロはエルサレムに着いて、弟子たちの仲間に入ろうと試みたが、みなは彼を弟子だとは信じないで、恐れていた。

Act 9:27 ところが、バルナバは彼を引き受けて、使徒たちのところへ連れて行き、彼がダマスコへ行く途中で主を見た様子や、主が彼に向かって語られたこと、また彼がダマスコでイエスの御名を大胆に宣べた様子などを彼らに説明した。

③使徒たちの信任を受け、アンテオケ教会に派遣された。

Act 11:22 この知らせが、エルサレムにある教会に聞こえたので、彼らはバルナバをアンテオケに派遣した。

Act 11:23 彼はそこに到着したとき、神の恵みを見て喜び、みなが心を堅く保って、常に主に

とどまっているようにと励ました。

④彼は、聖霊の満たしによって奉仕した。

Act 11:24 彼はりっぱな人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった。こうして、大ぜいの人
が主に導かれた。

⑤彼は、パウロをアンテオケ教会での奉仕に誘い出した。

Act 11:25 バルナバはサウロを捜しにタルソへ行き、

Act 11:26 彼に会って、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集ま
り、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるよう
になった。

⑥パウロと協力して異邦人伝道に取り組んだ（第1回伝道旅行）（13～14章）。

⑦マルコの処遇を巡ってパウロと対立した（15：36～39）。

結論：家の教会について

(1) 初期の教会は、すべて家の教会であった。

①信仰は、限定的な聖なる場所（神殿）から解放され、普遍的な生活の場である家に
本拠を移した。

②この状態が、約200年間続いた。

(2) 私たちは、家の教会しかなかったのは経済的理由によると思いがちである。

①このこと自体が、建物中心の教会しか考えられない現代人の限界性を示している。

②今こそ、家の教会の利点に目を開かれる必要がある。

(3) 家の教会の利点

①経済的利点

* 建物のためにお金を使う必要がなくなる。

* 献金を伝道のため、愛の実践のために用いることができる。

②物理的利点

* 建物がなくても集会を開くことができる。

* 会堂の使用頻度を考えると、建築費、維持費、補修費などは割に合わない。

③伝道上の利点

* 建物を巡る競争心、嫉妬心などから解放される。

* 建物がないと信用されないの、伝道は難しくなるという人がいる。

* 初期の教会においては、家の教会は信徒のための礼拝と交わりの場であった。

* 彼らは日常生活の場で伝道し、決心した人を家の教会に招いた。

*新しく救われた人たちは、家の教会に受け入れられ、そこで弟子訓練を受けた。

④文化的利点

*未信者は教会に対して警戒心を抱いている。

- ・形式主義への恐れ
- ・組織に束縛されることへの恐れ
- ・献金への恐れ

*家の教会は、どの文化とも調和する形態である。

- ・日常的な雰囲気
- ・少人数の集会
- ・対話型の集会

(4) 教会とは何か。

①イエス・キリストを救い主と信じる人たちの群れである。

②一番重要なのは、イエス・キリストが中心にいるかどうかである。

③使徒の働きの中に見られるパターン

*新しい地に出て行き、伝道する。

*信者が起されたなら、彼らを地域集会として組織化する。

*群れを導く指導者として、複数の長老を任命する。

*群れによって選ばれた複数の執事が置かれる。

④神は、このような教会を通してご自身の働きを進めてくださる。

「教会内の罪」

使徒5：1～16

1. はじめに

(1) 第1回目の教会成長報告は、使2：42～47にあった。

①決心した信者たちの弟子訓練が継続して行われた。

②貧しい兄弟たちのために、自分の持ち物を売って分配していた。

(2) 第2回目の教会成長報告は、使4：32～37にあった。

①信者の数は、約2万人になった。

②信者の間に一致があった。

③その一致が、相互扶助の形で表現された。

④信者の手本になる人物として、バルナバが登場した。

(3) この箇所では、教会内の罪が初めて取り上げられる。

①アナニヤとサッピラは、バルナバとは対照的な人物である。

②神の働きが顕著である時は、悪魔も忙しく働く。

③しかし、教会の霊性が健全であれば、悪は白日の下にさらされる。

2. アウトライン

(1) アナニヤの罪の裁き（1～6節）

(2) サッピラの罪の裁き（7～11節）

(3) 使徒たちの力ある証し（12～16節）

結論：

(1) アナニヤとサッピラの救い

(2) ペテロの権威

教会内の罪について学ぶ。

I. アナニヤの罪の裁き（1～6節）

1. 1～2節

Act 5:1 ところが、アナニヤという人は、妻のサッピラとともにその持ち物を売り、

Act 5:2 妻も承知のうえで、その代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

(1) アナニヤとサッピラは、バルナバと対照的な人物である。

①彼らは、バルナバが受けた人々からの賞賛を求めたのであろう。

②同じ「使徒たちの足もとに置いた」という表現が使用されている。

＊バルナバと同じことをしたように見えているが、重要な点で違いがある。

③彼らは、代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、捧げた。

④訳文の比較

「代金の一部を残しておき、」（新改訳）

「代金の一部を自分のために取っておき、」（新改訳 2017）

「代金をごまかし、」（新共同訳）

「その代金をごまかし、」（口語訳）

「幾分を匿(かく)しおき、」（文語訳）

⑤ギリシア語の動詞「ノスフィゾウ」

(2) アナニヤとサッピラの罪は、旧約聖書のアカンの罪に似ている。

①ヨシ 7 : 1～26

Jos 7:1 しかしイスラエルの子らは、聖絶のもののことで不信の罪を犯し、ユダ部族のゼラフの子ザブディの子であるカルミの子アカンが、聖絶のもののいくらかを取った。そこで、【主】の怒りはイスラエル人に向かって燃え上がった。

②七十人訳では「取った」（ヘブル語のラカァ）という動詞は「ノスフィゾウ」。

＊ルカは、読者がアカンの罪を連想することを意図している。

③神の目に隠されているものは何もない。

④民 32 : 23 の警告

Num 32:23 しかし、もしそのようにしないなら、今や、あなたがたは【主】に対して罪を犯したのだ。あなたがたの罪の罰があることを思い知きなさい。

2. 3～4 節

Act 5:3 そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。

Act 5:4 それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではなく、なぜこのようなことをたくらんだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」

(1) ペテロは、超自然的に彼らの欺きを見抜いた。

①使徒ペテロに与えられた啓示である。

(2) 「どうしてあなたはサタンに心を奪われ、」

①欺きの行為の原因は、単にアナニヤの内にある罪の性質ではない。

②彼は、サタンに心を奪われたのである。

＊サタンに満たされた（彼の人格がサタンに支配された）。

＊聖霊の満たしと正反対の概念である（人格が聖霊によって支配されること）。

③とは言え、彼の責任が軽減されるわけではない。

(3)「聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか」

①代金の一部を自分のために取っておくのは、聖霊を欺く行為である。

②聖霊は、人格をお持ちである。

(4)「それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではないか」

①ここには、大いなる皮肉がある。

②持ち物は、元々アナニヤのものである。

③売ってからも自分の自由になった。

＊代金を使徒たちの足もとに置かなくてもよかった。

＊あるいは、売った代金の一部ですと言えばよかった。

(5)「あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ」

①アナニヤは、使徒たちを欺いた。

②それは、聖霊を欺くことである。

③それは、神を欺くことである。

④アカンに下ったのと同じ厳しい裁きが下る。

1. 5～6 節

Act 5:5 アナニヤはこのことばを聞くと、倒れて息が絶えた。そして、これを聞いたすべての人に、非常な恐れが生じた。

Act 5:6 青年たちは立って、彼を包み、運び出して葬った。

(1) アナニヤの意味は、「神が与えた」である。

①神はアナニヤの命を取り去られた。

②「息が絶えた」は、「エクスコウ」という動詞である。

＊死を意味するギリシア語の医学用語である。

＊魂が外に出るという意味（英語の expire と同じ意味）。

③ペテロを糾弾するのはお門違いである。

＊アナニヤ自身がこの結果をもたらしたのである。

(2) これは、公の集会の中で起こった（家の教会）。

①会衆の中の若者たちは、死体を埋葬用の布で包んだ。

②外に運んで、死体を埋葬した。

II. サッピラの罪の裁き（7～11 節）

1. 7～8 節

Act 5:7 三時間ほどたって、彼の妻はこの出来事を知らずに入って来た。

Act 5:8 ペテロは彼女にこう言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのですか。私に言いなさい。」彼女は「はい。その値段です」と言った。

(1) サッピラは、この出来事を知らずに家に入って来た。

①彼女は 3 時間前にやもめになっていたのである。

(2) ペテロは、彼女に罪を告白し、正直に話す機会を与えた。

①これは、罾ではない。

②夫の影響のない状況で、彼女に機会を与えたのである。

③サッピラとは、「美しい」という意味である。

*彼女は、ペテロと会衆の前で「美しく」答えることができなかった。

2. 9 節

Act 5:9 そこで、ペテロは彼女に言った。「どうしてあなたがたは心を合わせて、主の御霊を試みたのですか。見なさい、あなたの夫を葬った者たちが、戸口に来ていて、あなたをも運び出します。」

(1) ペテロは、彼女の罪を断罪した。

①彼女が夫と共謀して聖霊を欺いたことは、誰の目にも明らかであった。

②聖霊を欺くことは、主の御霊を試みるのと同じことである。

(2) 「あなたの夫を葬った者たちが、戸口に来ていて、あなたをも運び出します」

①これは、死刑宣告である。

3. 10～11 節

Act 5:10 すると彼女は、たちまちペテロの足もとに倒れ、息が絶えた。入って来た青年たちは、彼女が死んだのを見て、運び出し、夫のそばに葬った。

Act 5:11 そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちとに、非常な恐れが生じた。

(1) 彼女は、夫がそうであったように、即座に息が絶えた。

①夫の埋葬を終えた青年たちは、2度目の埋葬を行った。

(2) 教会全体と、このことを聞いたすべての人たちとに、非常な恐れが生じた。

①申 21 : 21

Deu 21:21 町の人はみな、彼を石で打ちなさい。彼は死ななければならない。あなたがたのうちから悪を除き去りなさい。イスラエルがみな、聞いて恐れるために。

②アカンの場合と同じように、信仰の共同体から罪が取り除かれた。

(3) 使徒の働きの中で、教会という言葉が初めて登場する（使 5 : 11）。

①エクレシア

②これ以降、キリストを信じた人の群れは、エクレシアと呼ばれるようになる。

Ⅲ. 使徒たちの力ある証し（12～16 節）

1. 12 節

Act 5:12 また、使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議なわざが人々の間で行われた。みなは一つ心になってソロモンの廊にいた。

(1) 教会の中から罪が取り除かれた結果、超自然的な祝福が下った。

①使徒たちの手によって、より多くの奇跡が行われるようになった。

②奇跡を行ったのは、使徒たちだけである。

③奇跡は、使徒職の權威のしるしである。

(2) 奇跡は、公の場で行われたようである。

①ソロモンの廊で集会が開かれていた。

2. 13～14 節

Act 5:13 ほかに人々は、ひとりもこの交わりに加わろうとしなかったが、その人々は彼らを尊敬していた。

Act 5:14 そればかりか、主を信じる者は男も女もますますふえていった。

(1) 2 種類の人々がいた。

①軽々しくは信仰を告白できないと考え、交わりに加わらない人々

＊しかし彼らは、信者たちを尊敬していた。

②超自然的なしるしのゆえに、主を信じる人々

3. 15～16 節

Act 5:15 ついに、人々は病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせ、ペテロが通りかかるときには、せめてその影でも、だれかにかかるようにするほどになった。

Act 5:16 また、エルサレムの付近の町々から、大ぜいの人が、病人や、汚れた霊に苦しめられている人などを連れて集まって来たが、その全部がいやされた。

(1) 使徒たちの中で、特にペテロの権威が取り上げられている。

- ①ペテロが通りかかると、その影がかかることを求める人たちも出た。
- ②エルサレムだけでなく、近郊の町々からも大ぜいの人がペテロのもとに来た。
- ③病人、悪霊につかれた人のすべてがいやされた。

結論：

1. アナニヤとサッピラの救い

- (1) 彼らは救いを失ったのだろうか。
- (2) 「永遠の保証」という教え
 - ①一度救われた人は、その救いを失うことはない。
 - ②アナニヤとサッピラは途中で命が断たれたが、救いは失っていない。
- (3) 神は、初期の教会の聖さを汚す罪を不快に感じられた。
 - ①アナニヤとサッピラが去るか、聖霊が去るかのいずれかである。

2. ペテロの権威

(1) ペテロは、有罪を宣告する権威を持っていた。

①マタ 16 : 19

Mat 16:19 わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」

②ヨハ 20 : 23

Joh 20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」

(2) 使徒パウロにも同じ権威が与えられていた。

①1 コリ 5 : 4～5

1Co 5:4 あなたがたが集まったときに、私も、霊においてともにおり、私たちの主イエスの権能をもって、

1Co 5:5 このような者をサタンに引き渡したのです。それは彼の肉が滅ぼされるためですが、それによって彼の霊が主の日に救われるためです。

(3) 使徒たちの死以降もこのしるしが続いたとは、考えられない。

「使徒たちの逮捕（1）」

使徒5：17～32

1. はじめに

(1) 教会内部の問題が処理された。

①アナニヤとサッピラの罪が裁かれた。

②聖霊の働きがより顕著に現れるようになった。

③使5：15～16

Act 5:15 ついに、人々は病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせ、ペテロが通りかかるときには、せめてその影でも、だれかにかかるようにするようになった。

Act 5:16 また、エルサレムの付近の町々から、大ぜいの人が、病人や、汚れた霊に苦しめられている人などを連れて集まって来たが、その全部がいやされた。

(2) 聖霊が働かれると、2つの結果が生まれる。

①真実な回心を経験する者たちが起される。

②強い反発を示す者たちが現れる。

2. アウトライン

(1) 使徒たちの逮捕（17～18節）

(2) 天使による解放（19～24節）

(3) 再逮捕（25～26節）

(4) サンヘドリンでの裁判（27～32節）

結論：

(1) 十字架の意味

(2) 国家と教会

公権力からの迫害にどのように対処すべきかについて学ぶ。

I. 使徒たちの逮捕（17～18節）

1. 17節

Act 5:17 そこで、大祭司とその仲間たち全部、すなわちサドカイ派の者はみな、ねたみに燃えて立ち上がり、

(1) 「そこで」

①ギリシア語の「δε」。最も一般的な接続詞である。

②英語で、「then」「but」「and」などの訳がある。

- ②使徒たちの超自然的な働きのことを聞いて、彼らは反発を覚えた。
- ③イエスの弟子たちが、民衆の上に大きな影響力を持ち始めている。

(2) 「大祭司とその仲間たち全部」

- ①大祭司は、アンナスかカヤパ(文脈上はアンナスである)。
- ②「その仲間たち全部」とは、サドカイ派の者たちである。
- ③サドカイ派は、祭司たちと貴族階級の者たちから成っていた。

(3) 「ねたみに燃えて立ち上がり」

- ①「they were filled with jealousy」(ASV)
- ②彼らは、自分たちこそ宗教的リーダーであると自負していた。
*宗教的特権を守ることが最大の関心事であった。
- ③肉体の復活を信じていなかったのも、イエスの復活のメッセージに反発した。
- ④使徒たちは「聖霊に満たされた」が、彼らは「嫉妬に満たされた」。
*何がその人の人格を支配しているかということである。

2. 18 節

Act 5:18 使徒たちを捕らえ、留置場に入れた。

- (1) 彼らには、力によって抑圧するしか使徒たちに対処する方法がなかった。
 - ①使4:1~3 ペテロとヨハネの逮捕
 - ②使5:17~18 使徒たち全員の逮捕

(2) 「留置場」

- ①ここは、裁判にかかる前に被疑者を勾留する場所である。
- ②ペテロとヨハネは、神殿内にある留置場に入れられた。
- ③12使徒たちは、公の留置場に入れられた。

II. 天使による解放(19~24 節)

1. 19~21 節 a

Act 5:19 ところが、夜、主の使いが牢の戸を開き、彼らを連れ出し、

Act 5:20 「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちのことばを、ことごとく語りなさい」と言った。

Act 5:21a 彼らはこれを聞くと、夜明けごろ宮に入って教え始めた。

- (1) 天使は、夜、牢の戸を開き、彼らを連れ出した。

- ①使徒たちが驚いたかどうか、ルカは記録していない。
- ②神の超自然的な介入は、使徒たちには日常的な体験であったと思われる。

(2) 天使は、使徒たちに命令を与えた。

- ①「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちのことばを、ことごとく語りなさい」
- ②「このいのちのことば」は、「all the words of this life」(ASV) である。
- ③これは、イエス・キリストの福音のことである。
- ④イエス・キリストを信じる者には、イエスの復活のいのちが与えられる。
*キリスト教は、教理の体系ではなく、イエスのいのちに与ることである。

(3) 使徒たちは、夜明けとともに神殿に戻り、元の場所で宣教を再開した。

- ①午前9時の祈りのために、朝早くから大勢の人たちが神殿に上って来た。
- ②使徒たちは、ソロモンの廊で教えた。

2. 21b～23 節

Act 5:21b 一方、大祭司とその仲間たちは集まって来て、議会とイスラエル人のすべての長老を召集し、使徒たちを引き出して来させるために、人を獄舎にやった。

Act 5:22 ところが役人たちが行ってみると、牢の中には彼らがいなかったので、引き返してこう報告した。

Act 5:23 「獄舎は完全にしまっており、番人たちが戸口に立っていましたが、あけてみると、中にはだれもおりませんでした。」

(1) サドカイ派は、議会を開くために、パリサイ派の議員たちを召集した。

- ①役人たちを獄舎に派遣し、使徒たちを議会に連行しようとした。
- ②この辺りは、ほとんど喜劇である。

(2) 役人たちは牢の中に誰もいないことを確認し、引き返して報告した。

- ①獄舎は完全にしまっていた。
- ②番人たちは戸口に立っていた。
- ③あけてみると中にはだれもいなかった。

(3) 天使は、丁寧に仕事をしたのであろう。

- ①使徒たちを連れ出した後、牢の扉を閉めた。

3. 24 節

Act 5:24 宮の守衛長や祭司長たちは、このことばを聞いて、いったいこれはどうなっていく

のかと、使徒たちのことで当惑した。

(1) 宮の守衛長や祭司長たち

①この新しい宗教運動は、どこまで行くのかと当惑した。

Ⅲ. 使徒たちの再逮捕（25～26 節）

1. 25 節

Act 5:25 そこへ、ある人がやって来て、「大変です。あなたがたが牢に入れた人たちが、宮の中に立って、人々を教えています」と告げた。

(1) ある人の報告により、彼らの当惑はさらに深まった。

①牢に入れた者たちが、神殿に戻り、再び民衆に教えている。

(2) クリスマンにとっては、これは教訓であり挑戦である。

①初代教会の使徒たちは、いかなる犠牲を払ってでも福音を伝えようとした。

2. 26 節

Act 5:26 そこで、宮の守衛長は役人たちといっしょに出て行き、使徒たちを連れて来た。しかし、手荒なことはしなかった。人々に石で打ち殺されるのを恐れたからである。

(1) 役人たちは、暴力を用いずに、穏便な方法で使徒たちを議会に連行して来た。

①彼らは、民衆の怒りを恐れたのである。

②使徒たちは、多くの人々から受け入れられていた。

③民衆を怒らせたなら、暴動が起こる危険性があった。

Ⅳ. サンヘドリンでの裁判（27～32 節）

1. 27～28 節

Act 5:27 彼らが使徒たちを連れて来て議会の中に立たせると、大祭司は使徒たちを問いただして、

Act 5:28 言った。「あの名によって教えるはならないときびしく命じておいたのに、何ということだ。エルサレム中にあなたがたの教えを広めてしまい、そのうえ、あの人の血の責任をわれわれに負わせようとしているではないか。」

(1) 大祭司がスポークスマンになり、使徒たちを尋問した。

①使徒たちの「プリズンブレイク」については、質問しなかった。

②どのような回答があるか、恐れたからであろう。

(2) 大祭司は、使徒たちがサンヘドリンの決定を無視したことを批判した。

①「**あの名**」は、イエスという名を口にすることを回避した表現である。

②「**エルサレム中にあなたがたの教えを広めてしまい**」

＊意図に反して、使徒たちの宣教の有効性を認めている。

(2)「**そのうえ、あの人の血の責任をわれわれに負わせようとしているではないか**」

①彼らは自分からそう宣言したはずである。

②マタ 27：25

Mat 27:25 **すると、民衆はみな答えて言った。「その人の血は、私たちや子どもたちの上にかかってもいい。」**

③彼らは、自らの宣言の重みを初めて実感し始めた。

2. 29 節

Act 5:29 **ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。「人に従うより、神に従うべきです。」**

(1) 使 4：29 の祈りは叶えられた。

Act 4:29 **主よ。いま彼らの脅かしをご覧になり、あなたのしもべたちにみことばを大胆に語らせてください。**

(2) 彼らは、「人に従うより、神に従うべきです」と答えた。

①彼らは、サンヘドリンの決定は神の御心に反するものであると確信していた。

3. 30～31 節

Act 5:30 **私たちの父祖たちの神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを、よみがえらせたのです。**

Act 5:31 **そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。**

(1) 彼らの証言の内容は、これまでペテロが語ってきたものと同じである。

①使徒たちは、イエスの死の責任はサンヘドリンにあると宣言した。

②また彼らは、イエスの死、復活、昇天について力強く証した。

③今起こっている奇跡の数々は、昇天したイエスの働きである。

④そのイエスは、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えてくださる。

4. 32 節

Act 5:32 **私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。」**

(1) 彼らは、イエスの復活と昇天の証人である。

①申 19:15 (2人、または3人の証人によって立証される) の教えが根底にある。

②ペテロとその他の使徒たちの証言がある。

③聖霊もそのことの証人である。

*ヨハ 15:26

(2) 信じる者には聖霊の内住がある。

①サンヘドリンには、聖霊の臨在はない。

結論：

1. 十字架の意味

(1) 使 5:30

Act 5:30 私たちの父祖たちの神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを、よみがえらせたのです。

①訳文の比較

「あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを」(新改訳)

「あなたがたが木にかけて殺したイエスを」(新改訳 2017)

「あなたがたが木につけて殺したイエスを」(新共同訳)

「あなたがたが木にかけて殺したイエスを」(口語訳)

(2) ギリシア語で十字架は、「スタウロス」である。

①ここでは、「スタウロス」ではなく「クスロン」(木)が使われている。

②使徒の働きの中では、「スタウロス」の使用は意図的に避けられている。

*ペテロのメッセージ：使 2:23、5:30、10:39

*パウロのメッセージ：使 13:29

③「木」は「十字架」の婉曲語である。

(3) 申 21:22~23

Deu 21:22 もし、人が死刑に当たる罪を犯して殺され、あなたがこれを木につるすときは、

Deu 21:23 その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならない。木につるされた者は、神にのろわれた者だからである。あなたの神、【主】が相続地としてあなたに与えようとしておられる地を汚してはならない。

(4) ペテロは、申 21:23 に言及しているのである。

(5) パウロも同じことをしている。

Gal 3:13 キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、「木にかけられる者はすべてののろわれたものである」と書いてあるからです。

2. 国家と教会

- (1) 公権力からの妨害を受け時、初代教会はどのように対応したのか。
- (2) 基本的には、公権力を尊敬し、従順な態度を取った。
 - ①地上の権威は、神によって任命されている。
 - ②地上の権威は、平和と安定をもたらす責務を神から委ねられている。
- (3) 地上の権威が神に敵対する場合は、どのような結果になろうとも神に従う。
 - ①使 4：19～20

Act 4:19 ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。」

Act 4:20 私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」

②使 5：29

Act 5:29 ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。「人に従うより、神に従うべきです。」

- (4) 初代教会が政治権力を転覆させることを考えたことは、全くなかった。
 - ①迫害を受けても、指導者たちの祝福を願った。
 - ②市民権を用いることを、悪いことだとは考えなかった。
- (5) 彼らは、福音伝達という 1 つの目標のために前進した。

「使徒たちの逮捕（2）」

使徒5：33～42

1. はじめに

- (1) 教会内部の問題が処理された。
 - ①アナニヤとサッピラの罪が裁かれた。
 - ②聖霊の働きがより顕著に現れるようになった。
- (2) 聖霊が働かれると、2つの結果が生まれる。
 - ①真実な回心を経験する者たちが起される。
 - ②強い反発を示す者たちが現れる。

2. 前回のアウトライン

- (1) 使徒たちの逮捕（17～18 節）
- (2) 天使による解放（19～24 節）
- (3) 再逮捕（25～26 節）
- (4) サンヘドリンでの裁判（27～32 節）

3. 今回のアウトライン

- (5) サンヘドリンの反応（33 節）
- (6) ガマリエルの助言（34～39 節 a）
- (7) 使徒たちの釈放（39b～42 節）

結論：迫害に打ち勝つ秘訣

- (1) 迫害が起こることを想定せよ。
- (2) 迫害を神の視点から見よ。
- (3) 迫害を乗り越えた使徒たちの体験から学べ。

公権力からの迫害にどのように対処すべきかについて学ぶ。

V. サンヘドリンの反応（33 節）

1. 33 節

Act 5:33 彼らはこれを聞いて怒り狂い、使徒たちを殺そうと計った。

- (1) 使徒たちの大胆な証言は、議員たちを激怒させた。
 - ①使徒たちは、イエスの死の責任はサンヘドリンにあると宣言した。
 - ②また彼らは、イエスの死、復活、昇天について力強く証した。

- ③今起こっている奇跡の数々は、昇天したイエスの働きである。
- ④そのイエスは、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えてくださる。
- ⑤彼らは、イエスの復活と昇天の証人である。聖霊もそのことの証人である。

(2) 「怒り狂い」

- ①ギリシア語で「ディアプリオウ」という動詞である。
- ②「they were cut to the heart」(KJV、ASV)
- ③「心が切り裂かれた」「グサツときた」
- ④使2:37では、罪責感が原因で心が切り裂かれた。

Act 2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいのでしょうか」と言った。

*民衆は、ペテロのメッセージに悔い改めをもって応答した。

- ⑤ここでは、怒りによって心が切り裂かれた。

*指導者たちは、怒りと敵対心をもって応答した。

(3) 「使徒たちを殺そうと計った」

- ①使4:7の尋問

Act 4:7 彼らは使徒たちを真ん中に立たせて、「あなたがたは何の権威によって、また、だれの名によってこんなことをしたのか」と尋問しだした。

*使徒たちの癒しの業が悪霊の力によるものかどうかを尋問している。

*もしそうなら、これは石打の刑に値する罪である。

- ②使5章での使徒たちの罪は、サンヘドリンの権威に対する不従順である。

*この罪は、死刑に処すべきものではない。

*しかし彼らは、死刑を画策し始めた（法的根拠がない）。

II. ガマリエルの助言（34～39節a）

1. 34節

Act 5:34 ところが、すべての人に尊敬されている律法学者で、ガマリエルというパリサイ人が議会の中に立ち、使徒たちをしばらく外に出させるように命じた。

- (1) ガマリエルが、使徒たちを外に出させるように命じた。

- ①感情的に愚かな決断を下してはならない。
- ②頭を冷やして、理性的な議論をすべきである。

- (2) ガマリエルという人物について

- ①名前の意味は、「God is also for me」（神は私の味方でもある）。
- ②パリサイ派の中で最も有名で尊敬されている律法学者である。
- ③通常は、律法学者は「グラマテウス」（scribe）である。
- ④ここでは、「ノモディダスカロス」（a doctor of the Law）が使用されている。
- ⑤ガマリエルは、有名なラビであるヒレルの弟子である。
- ⑥タルソのサウロは、ガマリエルの弟子である（使22：3）。

Act 22:3 「私はキリキヤのタルソで生まれたユダヤ人ですが、この町で育てられ、ガマリエルのもとで私たちの先祖の律法について厳格な教育を受け、今日の皆さんと同じように、神に対して熱心な者でした。

- ⑦ユダヤ教の歴史の中で、ラバン（私たちの教師）と呼ばれる人物が7人いる。
- ⑧ガマリエルは、ラバンというタイトルで呼ばれた最初の人物である。
- ⑨「ラバン・ガマリエルが死んだとき、トーラーの栄光は終わり、清浄と分離は消滅した」（ミシュナ）

(3) パリサイ人について

- ①ヘブル語「パラシム」で、ギリシア語で「ファリサイオス」。
 - * 「分離した」という意味。
- ②ユダヤ教の種々のグループの中で、文化的には最も保守的である。
 - * 特に、ヘレニズム化には抵抗した。
- ③教理的には、イエスと弟子たちは、サドカイ派よりもパリサイ派に近かった。
 - * 死者の復活を信じていた。
 - * 永遠の報奨と永遠の裁きを信じていた。
 - * 天使や悪霊の存在を信じていた。
 - * 神の主権と人間の責務をバランス良く理解していた。
 - * 律法、預言者、諸書の全体を神の啓示と信じていた。
 - * 律法の遵守に情熱を傾けた結果、律法の周りに垣根を立てた（口伝律法）。
- ④この時代、民衆にとっては、ユダヤ教と言えばパリサイ的ユダヤ教であった。
- ⑤パリサイ人の中には、イエスを支持する人とイエスに敵対する人がいた。
- ⑥教会が誕生した直後は、パリサイ派は教会に対して中立的な立場を取った。
- ⑦使8章になって、パリサイ人のサウロが教会を迫害するようになる。

2. 35 節

Act 5:35 それから、議員たちに向かってこう言った。「イスラエルの皆さん。この人々をどう扱うか、よく気をつけてください。

- (1) 「イスラエルの人たち、あの者たちの取り扱いには慎重にしないで」（新共同訳）

①次に、慎重にすべき歴史的理由は 2 つ上げる。

3. 36～37 節

Act 5:36 というのは、先ごろチウダが立ち上がって、自分を何か偉い者のように言い、彼に従った男の数が四百人ほどありましたが、結局、彼は殺され、従った者はみな散らされて、あとかたもなくなりました。

Act 5:37 その後、人口調査のとき、ガリラヤ人ユダが立ち上がり、民衆をそそのかして反乱を起こしましたが、自分は滅び、従った者たちもみな散らされてしまいました。

(1) チウダの例

- ①革命運動であるが、詳細は分からない。
- ②一時的に広がったが、結局は消滅した。

(2) ガリラヤ人ユダ

- ①紀元 6 年に起こった納税に反対する反乱である。
- ②これも、一時的に広がったが、結局は消滅した。
- ③納税に反対する戦いは、次の数十年で熱心党の運動という形を取った。
- ④紀元 66 年の反乱（第一次ユダヤ戦争）は、熱心党が主導したものである。

4. 38～39 節 a

Act 5:38 そこで今、あなたがたに申したいのです。あの人たちから手を引き、放っておきなさい。もし、その計画や行動が人から出たものならば、自滅してしまうでしょう。

Act 5:39a しかし、もし神から出たものならば、あなたがたには彼らを滅ぼすことはできないでしょう。もしかすれば、あなたがたは神に敵対する者になってしまいます。」

(1) ガマリエルの忠告

- ①この運動が人から出たものなら、自滅するだろう。
- ②神から出たものなら、彼らを滅ぼすことはできない（神に敵対する者になる）
- ③それゆえ、手を引き、放っておくべきである。

(2) この忠告の評価

- ①良い結果をもたらしたが、この忠告は常識に基づくもので、真理ではない。
- ②神から出ていないのに長続きしている団体は、いくつもある。
- ③ガマリエルは、隠れたイエスの弟子ではない。

Ⅲ. 使徒たちの釈放（39b～42 節）

1. 39b～40節

Act 5:39b 彼らは彼に説得され、

Act 5:40 使徒たちを呼んで、彼らをむちで打ち、イエスの名によって語ってはならないと言
い渡したうえで釈放した。

(1) 議員たちは、ガマリエルの助言を受け入れた。

①この助言がなければ、使徒たちは民衆によって石で打ち殺されていただろう。

* ヨセフスによれば、パリサイ派は穏便、サドカイ派は残酷であった。

②使徒たちは、サンヘドリンの決定に対する不従順の罪の罰を受けた。

(2) むち打ちの刑

①39回のむち打ち（40 マイナス 1）（申 25：3）

Deu 25:3 四十までは彼をむち打ってよいが、それ以上はいけない。それ以上多くむち打たれ
て、あなたの兄弟が、あなたの目の前で卑しめられないためである。

* 肉体的に弱い場合は、39回よりも少ない回数にされた。

②むちは、牛の革の紐3本でできていた。

③両手を左右に広げた状態で、手を柱に縛られた。

* 上着を破られ、胸と背中を露出させられた。

* 胸に13回、背中に26回のむちを受けた。

* 途中で尿や便が出た場合は、そこでむち打ちは中止された。

(3) さらに彼らは、イエスの名によって語ることを禁じられた。

2. 41～42節

Act 5:41 そこで、使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜
びながら、議会から出て行った。

Act 5:42 そして、毎日、宮や家々で教え、イエスがキリストであることを宣べ伝え続けた。

(1) むち打ちは、2つの予想外の反応を生み出した。

①彼らは、喜んで議会から出て行った。

* むち打ちは、使徒の勲章となった。

* 「御名のためにはずかしめられるに値する者とされた」

②彼らの宣教の情熱は、増し加わった。

* 毎日、宮や家々で教え、イエスがキリストであることを宣べ伝えた。

結論：迫害に打ち勝つ秘訣

1. 迫害が起こることを想定せよ。

(1) 使徒たちは、迫害が想定外のことだとは思っていない。

(2) 主イエスの警告のことば（マタ 23：34～35）

Mat 23:34 だから、わたしが預言者、知者、律法学者たちを遣わすと、おまえたちはそのうちのある者を殺し、十字架につけ、またある者を会堂でむち打ち、町から町へと迫害して行くのです。

Mat 23:35 それは、義人アベルの血からこのかた、神殿と祭壇との間で殺されたバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上で流されるすべての正しい血の報復がおまえたちの上に来るためです。

①イエスは、ご自分の受難だけでなく、弟子たちの受難も預言しておられた。

②イエスが遣わす使者は、苦難に会う。

2. 迫害を神の視点から見よ。

(1) ペテロの勧告（1ペテ 4：12～13）

1Pe 4:12 愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、

1Pe 4:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びおどる者となるためです。

①試練とは、「キリストの苦しみ」にあずかることである。

②クリスチャンは、試練を通してキリストとより一体化していく。

③また試練は、私たちがキリストの栄光に与るための準備である（ロマ 8：17）。

Rom 8:17 もし子どもであるなら、相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人でもあります。

3. 迫害を乗り越えた使徒たちの体験から学べ。

(1) これが最後のむち打ちではなかった。

(2) パウロの体験（2コリ 11：24～25）

2Co 11:24 ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、

2Co 11:25 むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。

①ユダヤ人のむち打ちは5度

②ローマ人のむち打ちは3度

(3) パウロは、自分の弱さを誇るという。

①パウロの姿は、受難のしもべに似たものである。

②パウロは、受難のしもべと一体化していることを誇りとしているのである。